

大学連携コラム

◆ ◆ ◆ ドクターが診る 健康相談室

Vol.4

新型コロナで 婦人科受診を 控えていませんか？



大阪医科薬科大学病院
婦人科
大道 正英さん

日本婦人科腫瘍学会の調査によると、大都市圏では令和2年5月の子宮頸がん検診数が令和元年比で約44%落ち込んだと報告されています。子宮がんには、入口にできる子宮頸がんと、内腔にできる子宮体がんがあります。高槻市では、2年度に1回子宮頸がん検診が無料で受けられますから、新型コロナ下であっても検診を受け続けていただくことをお勧めします。

子宮頸がんは、がんに進行する前であれば20分程度の手術で済みますが、進行がんになれば子宮の全摘出が必要になります。子宮頸がんの初期では、不正出血などの症状はほとんどなく、**診断するには検診しかありません。**

また、子宮体がんは、初期から**不正出血が生じるのが特徴です。**不正出血があれば、ホルモンバランスの異常だと自己診断せずに、なるべく早く受診をしてください。

そのほか、卵巣がんは、不正出血が無く、**腹部に腫瘤感(膨らみ、しこり)が生じるのが特徴です。**体重に変化がないのに腹部が膨らんでくるようであれば、太ってきたのかなと自己診断せずに、受診することをお勧めします。